



Over the Horizon ~新たな景色へ~

11月の月目標「秋霜自省」について



生徒玄関に掲げている11月の言葉「秋霜自省」の意味するように、日々生活できましたか。

これは江戸時代末期の儒学者であり、朱子学や陽明学の大家である佐藤一斎の言葉です。意味としては「秋霜のするどさをもって自らを規正する。」ということです。規正とは、「規則に従って悪いところを、正しく改める。」と言う意味です。

人が精神的に成長する上で、反省・自省は大変重要です。反省・自省がなければ、失敗や過ちを繰り返すことになります。自分の行った行為に対して、反省や自省ができるのは人間の大きな特質の一つです。人間はいつからでもより良く変われます。成長進化できます。その鍵が反省・自省でしょう。

成長著しい中学生時代を大切に、自分を自分で磨き高めていきましょう。

関連した内容を下に、掲載します。

ローマ帝国第16代皇帝 マルクス・アウレリウス・アントニヌス・「自省録」

ローマ帝国第16代皇帝マルクス・アウレリウス・アントニヌスが政治家としての日々の悩みや自らの行動を省みる言葉などを書き留めた内容に「自省録」というものがあります。大変有名で本にもなっています。私も読んでみました。たくさんの気づきを与えてくれます。本の中の言葉を紹介します。

- われわれの人生とはわれわれの思考が作りあげるものに他ならない。
- 一つ一つの行動を人生最後のもののごとく行え。

渋沢栄一の座右の銘「吾日に吾身を三省す」

来年新1万円札の顔になる渋沢栄一氏が座右の銘にしていたといわれる言葉です。

論語の中の言葉で、原文は「曾子曰、吾日三省吾身、為人謀而不忠乎。与朋友而交不信乎、伝不習乎。」〔曾子(そうし)曰(いわ)く、吾(われ)日に吾(わ)が身を三省す、人の為(ため)に謀りて忠ならざるか。朋友(ほうゆう)と交わりて信ならざるか、習わざるを伝えしか、と。〕意味としては、毎日自分は何度も反省する。真心で相談に乗ったか、習ったことを十分理解していないのに、教えていないか。

人生二度なし

「いのちの授業」の感想を読ませてもらいました。

皆さんが真剣に受け止め、命の大切さ、当たり前の価値、つながりの重要性を感じていることに、素晴らしいと思いました。

今日という日は、誰にとっても自分の人生で一番若い日で、二度と同じ日が来ることはありません。誰も頭では分かっていますが、連続する毎日が明日もあるだろうと無意識に思っていて、普段と変わらない今日という一日を改まった意識で、一生懸命生きようと決意して過ごしたりはしません。

しかし、人生は後戻りできず、ある意味着実に死に向かって進んでいるとも考えられます。それが、あなたの人生はいついつまでと宣告されたらどうでしょう。砂時計の砂が落ちていくような感覚を覚えるかもしれません。そうしたとき、これまでの自分の人生を振り返って、何だったのだろうと思うかもしれません。ああすれば、こうすれば良かったと思うこともあるかもしれません。今もし、死が身近に迫っていると仮定して、後悔が残ると思えることがあれば、今この時から真剣に生きてみてはどうでしょう。これまでも、今も真剣ですという人は素晴らしいです。

人生二度なしです。



感謝できる力

「ありがとう」は、「有り難い」が語源と言います。この状況は当たり前ではない、有り難いことであるという状況に対して述べた言葉が、感謝の意味合いになって、人の口から出て感謝する意味で、決まった言葉として日常生活で使用されるようになったのでしょう。

皆さん、日常生活の中で「ありがとう」という言葉をどれくらい使っていますか。この言葉が、自然と出るようになれば立派です。物事を深く洞察すると、自分一人ではできることは少なく、間接的に多くの人の働きや、計らいによって、物事が成り立っていることが分かります。そのことが意識できる心の働きこそ、成長の証とも言えます。

より多くの人や物事に感謝できるようになれるといいですね。

心を育み、脳を活性化する読書

人生の先は誰にも分かりません。当然のように明日も同じようにやってくると、意識せずに毎日を生活している人が大半だと思います。しかし、それがそうではないという現実を無情にも突きつけられたとき、人はどう反応するのでしょうか。下の物語は、そうした現実に関するお話です。



きのうのオレンジ 藤岡 陽子 著 集英社文庫

30歳代働き盛りのレストランのオーナーが、末期の胃がんと診断され、余命幾ばくも無い中で懸命に生きるお話です。主人公と双子とされている弟との関係、治療を受ける病院で出会った高校の時の同級生の関わり、親の思い、など様々な関わりに関する物語が絡み合い、生きることを静かに問われ、考えさせられます。